

環境活動レポート

H29会計年度版

(対象期間 2016年10月1日～2017年9月30日)



環境省
エコアクション21
認証番号0004894

全ては幸せになる為、豊かな地域づくりに貢献する。

野原建設株式会社



発行 平成29年12月27日

目次

○ 目次	<u>1</u>
○ ごあいさつ	<u>2</u>
○ 当社概要	<u>3</u>
○ 環境方針	<u>4</u>
○ 実施体制	<u>5</u>
○ 環境目標	<u>6</u>
○ 今期環境目標及び実績	<u>7</u>
○ 活動計画・報告	<u>8 ~ 15</u>
○ 次年度活動計画	<u>16 ~ 17</u>
○ 建設業に関わる主な関連法規	<u>18</u>
○ 代表者による全体の評価と見直し	<u>19</u>

ごあいさつ

現在、環境問題は早急な対応が必要とされ、地球温暖化、森林破壊、海洋汚染、オゾン層破壊など、個人レベルでの取り組みでは容易に解決できない状況に陥っています。

会社全体でエコアクション2.1に取り組むことにより、社員ひとりひとりが様々な問題の現状を認識するようになりました。

また、環境マネジメントシステムを理解することにより、環境問題を企業の経営に関連付けて考え、環境保全への取り組みに着手していくための道標にしたいと考えています。

そして、日々の仕事の中という一番身近な所から「持続可能な社会」への取り組みを考えて行動ができる資質を、社員ひとりひとりが身に付けていけたらと願っています。

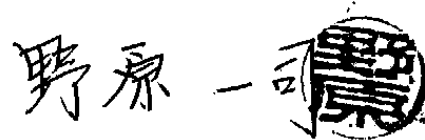
社員一丸となってアクションしていくことで、環境に与える悪影響が少ない社会へ向けての新たな行動を起こすきっかけとしていきたいです。

さらに、実践を積み重ねていく上で、効果的なアクションについても発信し、一企業として、ミニマムインパクトを紹介していきたいと考えます。

野原建設は標高750mの自然豊かな山間の地に生まれ、地域の方々に愛されながら100年の歴史を歩んできました。

自然環境なくしてこの地域はなく、地域なくして野原建設はありません。このことを社員全員がしっかりと胸に刻み、一步一步着実に環境経営に取り組んでいけたらと願っています。

野原建設株式会社 代表取締役



当社概要

○ 事業者名 野原建設株式会社

○ 代表者名 野原 一司

○ 所在地 〒939-2513

富山県南砺市利賀村上百瀬165

○ 環境管理責任者 野原 修実

○ 環境事務担当者 芦村 浩

○ 連絡先 TEL 0763-68-2136 FAX 0763-68-2608

E-mail : toga-nk@p1.tst.ne.jp

○ 事業内容 建設工事業（一般土木工事、建築工事、道路除雪作業）

【特定建設業】土木工事業、とび・土工工事業、水道施設工事業

【一般建設業】建築工事業、管工事業、塗装工事業、造園工事業

○ 事業の規模

活動規模	単位	2015年	2016年	2017年
工事等の件数	件	76	59	106
売上高	百万円	253	278	487
従業員	人	16	17	17
事務所床面積	m2	282	282	282
倉庫床面積	m2	484	484	484



環境方針

1：当社の事業活動に関連する環境関連法規を定期的に確認・遵守し、社会的要求事項を進取し地域社会との協調連帯を図ります。

2：環境方針達成を目指し、環境目標・環境活動計画を策定し、全社一丸となって環境保全活動の推進に努めます。

3：全従業員のみならず関係者一同が理解・行動できるよう、環境方針の周知に努め環境教育や啓発に力を注ぎます。

4：以下の項目について取り組みます。

- ① 二酸化炭素排出量の削減
- ② 廃棄物排出量の削減
- ③ 総排水量の削減
- ④ グリーン購入の推進
- ⑤ 自らが施工・販売・提供する製品及びサービスの環境配慮

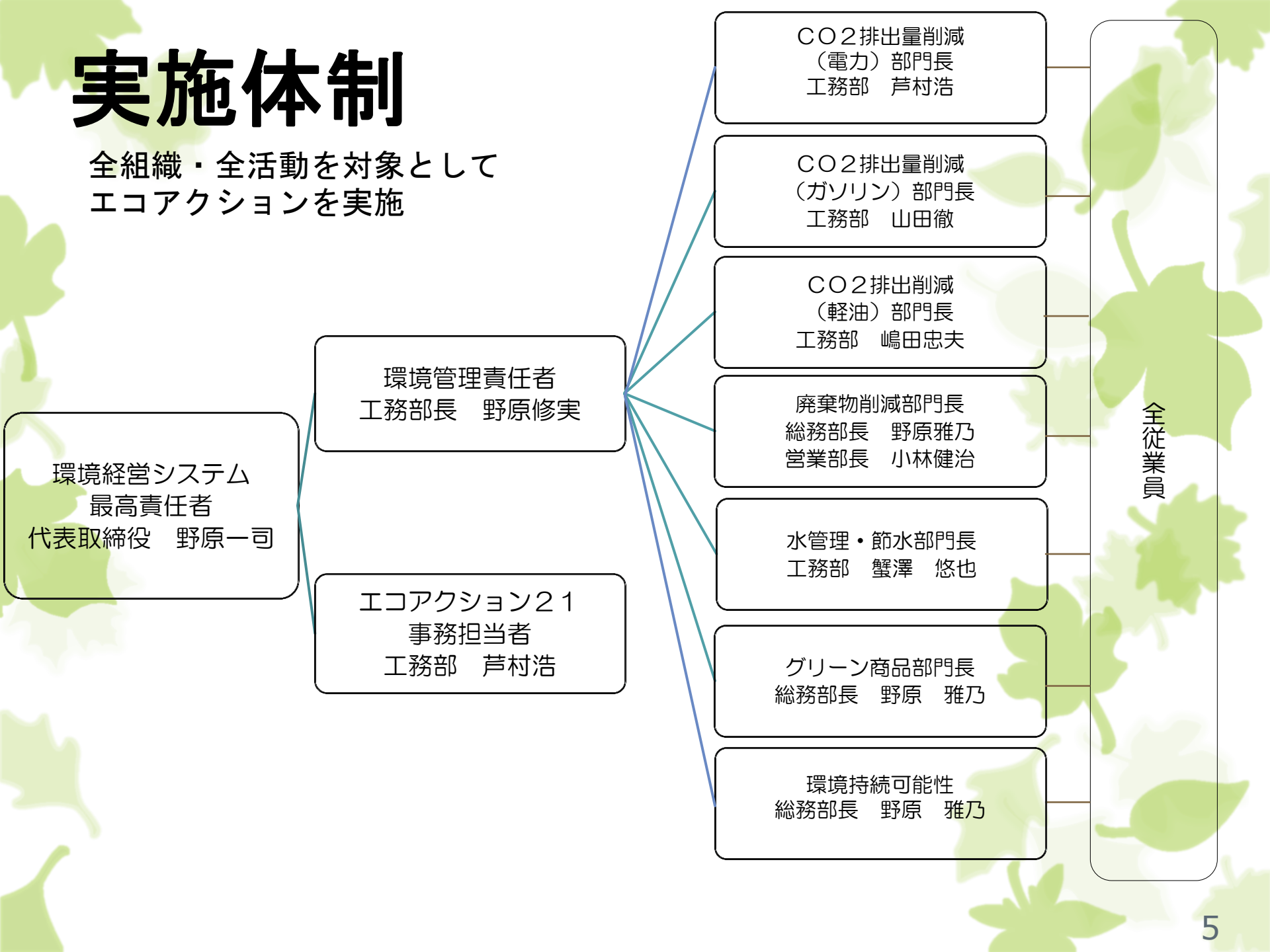
5：環境活動レポートを社内外に公表し、地域社会の一員として社会貢献活動を積極的に推進します。

平成28年10月1日

野原 一司

実施体制

全組織・全活動を対象として
エコアクションを実施



環境目標

環境方針		年度目標	中期目標	長期目標
二酸化炭素 排出量削減	電気	CO2排出量の維持 目標	社内の電力使用箇所の見える化を計り、CO2の最低排出レベルを維持する	チェックシートの運用・こまめな情報共有で、可能な限りのCO2排出量を維持する
	ガソリン	CO2排出量の維持 目標	定期的な情報公開を推進すると共に、見える化を計ってエコ運転の意識を高める	
	軽油	除雪工事高あたりのCO2排出量削減		
廃棄物排出 量削減	可燃ごみ	可燃ごみ排出量削減	ごみ分別の方法や廃棄箇所の表示など、わかりやすい表示を行う	ごみ分別化の徹底
水使用量削減		凍結期間を除いた水使用量の維持目標	節水の情報提供等を積極的に行い、見える化を推進して節水意識を高める	社内の水使用量を把握し、凍結期間を除く通年を通して最小使用量を維持できるよう努める
グリーン購入の推進		グリーン商品率先購入（月1品以上）	100%再生紙利用率を100%にし、グリーン商品を率先して使用する	100%再生紙利用率を100%にし、グリーン商品を率先して使用する
自らが施工・販売・提供する製品及びサービスの環境配慮		社内緑化及び地域ボランティアへの積極的な参加	地域の特性と資源を活かし、地域の持続可能性の向上に貢献する	地域の特性と資源を活かし、地域の持続可能性の向上に貢献する

（目標設定における維持は過去5年の平均値を目標値とし、+5%までを許容範囲とし、削減は過去5年の平均値を目標値とし、目標値以内の使用量・排出量を目指す）

今期環境目標値及び実績

項目	単位	基準年実績	H29目標	H29実績	H29達成率
二酸化炭素排出量削減					
（CO2総排出量）	kg	302714		294881	
（電気使用量）	KWh	9582	5932	5255	113%
（ガソリン使用量）	ℓ	24743	18066	20194	89%
（除雪高に対するCO2排出量）	kg/ 百万円	3465.6	2631.5	2050.3	123%
廃棄物排出量削減（可燃ごみ）	kg	224.85	123.73	127.82	97%
総排水量削減（5～11月）	m ³	49	34	81	42%

エコアクションの活動継続に伴い更なる削減が難しくなっており、過去5年間の平均を目標値に設定し、低排出レベルの維持に取り組む。

活動計画・報告

1. ①CO2排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理 (電力部門)

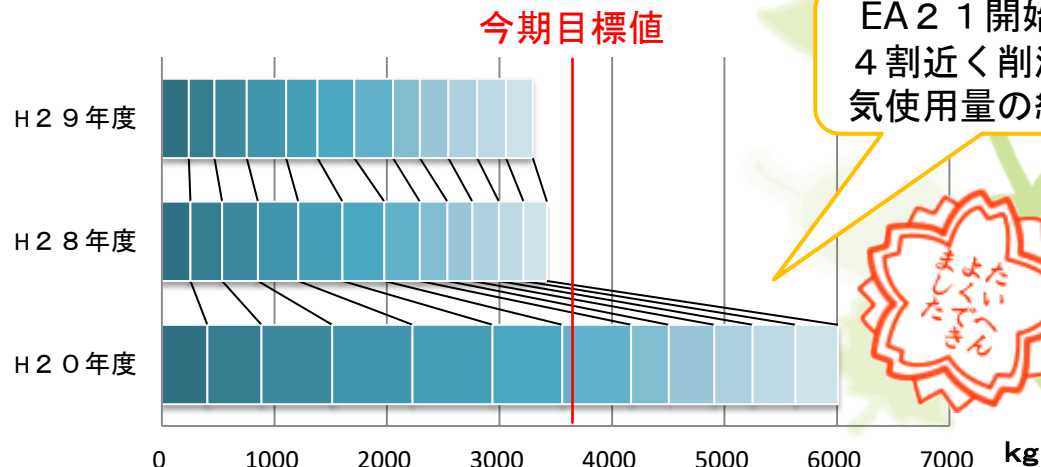
目標達成手段

1. エコアクションの意義の周知
2. ウォームビズの推奨
3. 電源をこまめに消す
4. 暖房温度22℃以下設定
5. 帰宅時電化製品の消灯確認
(電源オフチェックシートの運用)



LEDで
省電力化

電気使用によるCO2排出量推移



CO2排出係数 (kg-CO2/kWh) は北陸電力HPより引用
(2014年度のCO2排出係数0.647を適用)

環境活動への取組結果

こまめに電源消したりコンセントを抜くといった活動が積み重なり、電気使用量を集計しだしてから最も少ない電力使用量となった。この調子で活動を継続していく。

評価及び次年度の取組内容

成果は出ている、今後も消費電力の維持に努めてください。
LED化の終わってない箇所で対費用効果も含め有効に省電力化ができる箇所があるか計画を立ててみてください。

活動計画・報告

1. ②CO2排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理 (ガソリン部門)

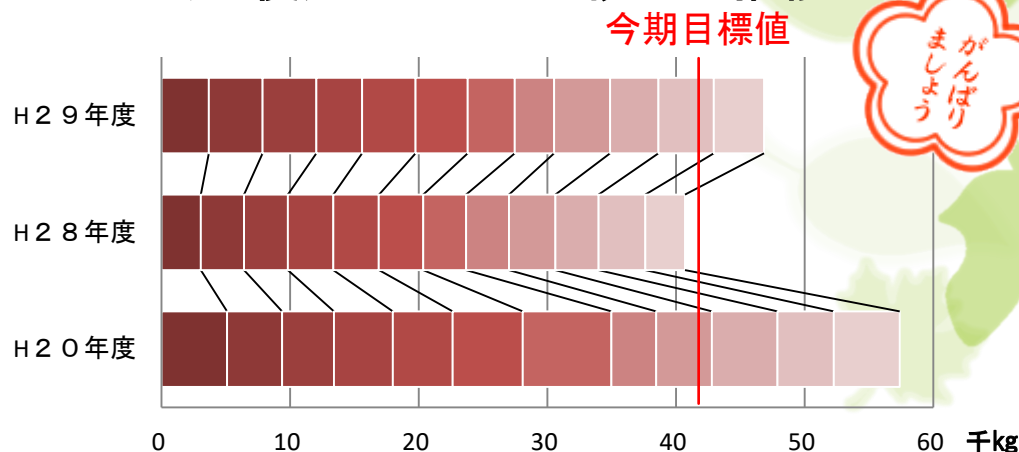
目標達成手段

1. 急発進・急停止をしない
2. 不必要なアイドリングの削減
3. 乗り合わせに努める
4. 3ヶ月毎の燃費の報告



各社用車の燃費と修理費
等経費の推移データを掲
示して意識づける

ガソリン使用によるCO2排出量推移



環境活動への取組結果

ガソリン使用量は近年横ばいであったが、目標値に比べ約1割使用量が多くなっていた。改善のためエコドライブ10のすすめに取り組んでいきはしたが、中村災害による通勤への影響が大きかったのではと考える。

評価及び次年度の取組内容

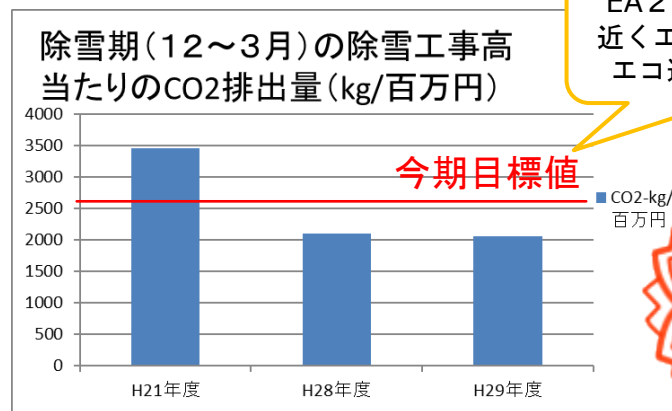
災害に対する経費が多くなった事は認められる。
現場も狭いので、乗り合わせを言葉で発信して努めること。

活動計画・報告

1. ③CO2排出量の把握と低排出レベルの維持及び管理 (軽油部門)

目標達成手段

1. 空ぶかしを最小限に
2. 静かな運転に努める
(エコ運転シール・エコオペレーションチェックシート)
3. 工事での重機作業時間を管理する
4. 低燃費・低排出型車両への移行



EA2 1 開始時より4割
近くエコに！じわじわと
エコ運転の意識定着！



排出ガス対策
機械の利用



環境活動への取組結果

エンジン回転数を作業に影響のない範囲で落とす等、エコ運転を心掛けた結果、除雪工事高に対する除雪期の軽油使用量は過去で最も良い結果であった。年間を通しての軽油使用量は災害工事の関係もあり過去10年間で2番目に多い使用量であった。

評価及び次年度の取組内容

多い使用量でも目標を達成できて良い。

次年度も朝礼などでエコ運転の発信をしてほしい。

活動計画・報告

2. 廃棄物排出量の削減（可燃ごみ）

目標達成手段

（現場）

1. 現場設置の混合廃棄物コンテナへのゴミ分別呼びかけ

（事務所）

1. 可燃ごみ排出時に重量を計測（ゴミ計量表の運用）
2. ゴミの分別推進
3. 記録用紙に裏紙を利用
4. 印刷前のプレビュー確認徹底
5. 記録には裏紙や両面印刷を使用

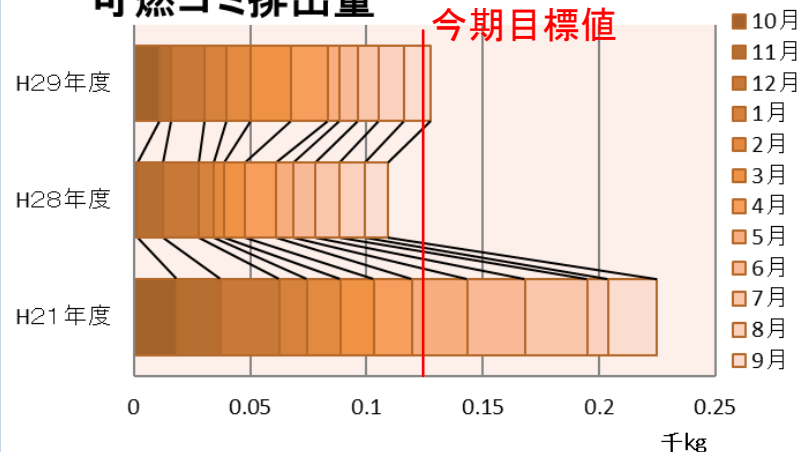


資源ごみは分別・計量して回収場所へ

EA21開始時と比べ
約半分の排出量へ！

がんばり
ましょう

可燃ゴミ排出量



環境活動への取組結果

可燃ごみ排出量の監視は行っていたが、目標値をわずかに超えてしまった。受注工事が例年に比べ多かったことで工事看板用のシール等のごみが増えたと考える。

可燃ごみについても排出量削減から低排出量維持へとシフトしていく。

評価及び次年度の取組内容

受注工事金額が2倍近くになったので、排出量が増えたことは理解できる。

これまでのごみ排出量の削減は確認できるので、次年度は削減から維持へとシフトしていく。

活動計画・報告

3. 水使用量の把握と節水努力の維持及び管理

目標達成手段

1. 事務所での水使用量の把握
2. 節水の意識を推進
(水道閉栓チェックリストの運用)
3. 植木への散水は湧水を利用する

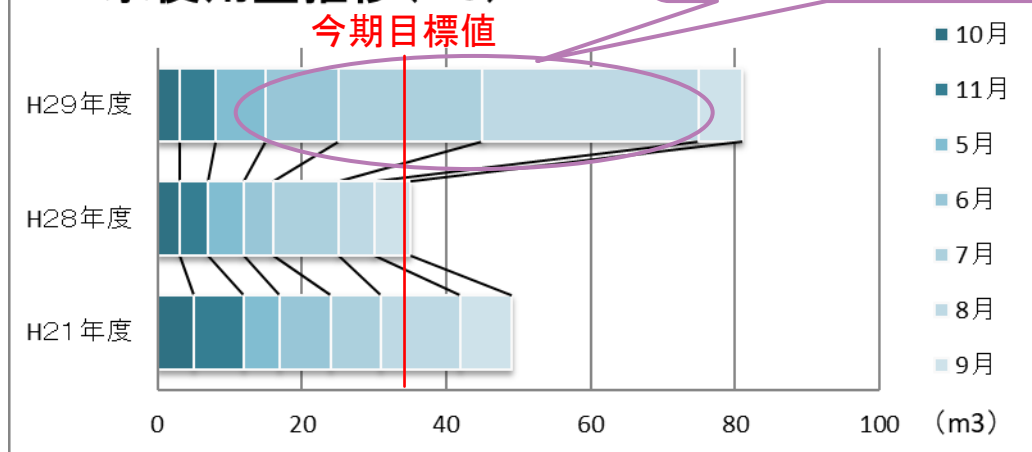


見える化で
節水意識を



会社事務所の
トイレを
和式から洋
式の節水型
に変更

水使用量推移(m3)



メーター～蛇口間で水
漏れ発生

環境活動への取組結果

水道の閉め忘れチェックは適切に実施していたが、見えない所で水漏れが発生・拡大しており、今期は比較が困難である。

社内整備の一環でトイレを新調する際、節水型のトイレを選択し設置した。

評価及び次年度の取組内容

見える化や、周知は図られていると思う。

冬期間は凍結防止の為、水を流す処置も仕方のない事と認識している。目標値をどのように設定するかを考える一年にする。

活動計画・報告

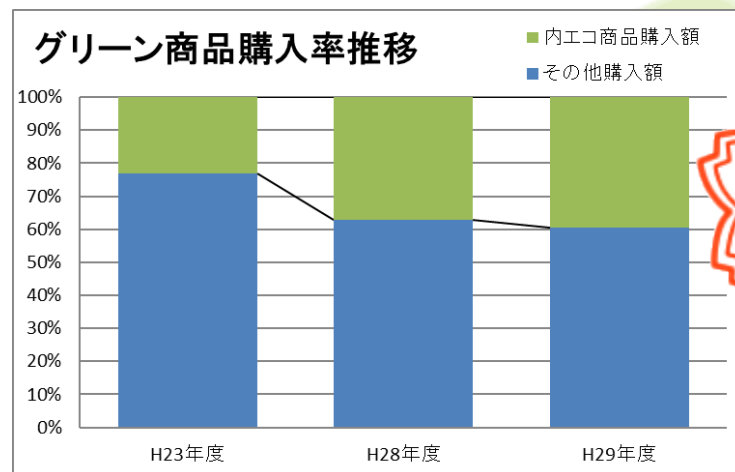
4. グリーン商品の率先使用

目標達成手段

1. 100%再生紙の利用率を高める
2. グリーン商品・再生可能商品の率先購入（月に1つ以上購入）
3. 事務用品購入金額とグリーン商品購入金額を管理・記録する



主なエコマーク商品



環境活動への取組結果

コピー用紙の100%再生紙利用は継続して行っており、グリーン商品の購入も意識して行っている。全体を通してのグリーン商品は39.6%であった。

評価及び次年度の取組内容

良い結果を出している。
今後どのような商品があるのか、アンテナを高くして確認していき40%を目指す

活動計画・報告

4. 現場におけるグリーン商品

5. 自らが施工・販売・提供する製品及びサービスの環境配慮

資材名	エコマーク 認定番号	再生材利用率	利用状況
面木	06131017	再生プラスチック78%以上	型枠組立時に通常利用
サンドガード	06105002	再生PET繊維80%以上	フトンカゴ等に利用
ユニット標識 エコユニボード	07118031	再生PET繊維50%以上	工事看板に利用
リサイクル スノーポール		ポリエチレン樹脂 (支柱部にリサイクル材使用)	除雪の目印に利用
プラ擬木	07131003	再生プラスチック80%以上	金剛堂山登山道整備工 事に利用
	07131002	再生プラスチック70%以上	
ライナープレート		再生ポリプロピレン樹脂	自由勾配側溝、大型ブ ロック高さ調整に利用



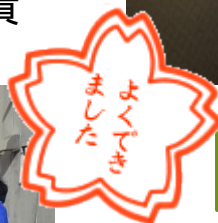
エコ資材使用例

活動計画・報告

5. 地域社会と環境の持続可能性向上への貢献 社内緑化

目標達成手段

1. 事務所内・外で観葉植物を育成し、社内及び景観美化に努める
2. 地域の清掃ボランティア等に積極的に参加し地域の一員としての貢献を果たす



事務所に設置し取れた多肉植物の葉は葉挿しで増殖



道路愛護や天空トレイルランコース整備へ



環境活動への取組結果

事務所内外へ鉢をセットし緑化を計り、多肉植物の葉挿しによる子育ても行っており、緑が順調に増えつつある。

地域のボランティア等にも積極的に参加し利賀村の自然を守る活動も継続して行っている。

評価及び次年度の取組内容

目標を達成している。
さらに、地域貢献に努める。

次年度活動計画（１）

環境方針	対象	目標	目標達成手段	目標値
二酸化炭素排出量の削減	電力	CO2排出量の維持目標 （目標設定における維持は過去5年の平均値を目標とし、+5%までを許容範囲とする）	消費電力の把握及び従来よりの節電対策を継続し、チェックシートを用いて維持管理する	年間使用電力 5767 (kWh)
	ガソリン	- 燃費の把握とエコ運転の意識持続 - ガソリン使用量の維持目標	- 各ガソリン車の燃費と燃料費を調べ、定期的に社内に掲示する - 現場までの乗り合わせを推進する	年間使用ガソリン 18524 (ℓ)
	軽油	- エコオペレーションチェックシートの運用 - 冬季の除雪工事高あたりのCO2排出量維持目標	- エコオペレーションチェックシートを用いて、エコ運転への取組みを日々意識化する - 作業に支障のない範囲でエンジン回転数を落とす	除雪工事高あたりのCO2排出量 2412 (kg/百万円)

次年度活動計画（２）

環境方針	対象	目標	目標達成手段	目標値
廃棄物排出量の削減	可燃ごみ	- 再生可能資源のリサイクル率向上 - 可燃ごみの排出量の維持目標	- 資源ゴミの分別化推進(現場) - 資源ゴミとの分別及び裏紙・両面印刷の徹底(事務所)	可燃ごみの年間排出量115 (kg)
総排水量の削減	水道	- 水道使用チェックリストを用いた節水管理 - 凍結期間を除いた水使用量の維持目標 - 湧水の有効活用	- 使用量の把握及び従来よりの節水対策を継続し、チェックシートを用いて維持する - 植木への散水は湧水を利用する	非凍結期水使用量34 (m3)
グリーン購入の推進	用 事 務	グリーン商品の率先購入	- 事務用品購入金額とグリーン商品購入金額を管理記録する - 主に購入する非グリーン商品をリストアップし代替品を探す目安にする	100%再生紙の利用率100%維持 グリーン商品購入率40%
	現 場 資 材	グリーン資材の利用	- 利用可能なグリーン資材利用 - 年度内に利用したグリーン資材のリストアップ	普段の工事中で何気なく行っている環境配慮を挙げ意識を向上させる

建設業に関わる主な関連法規等

環境法規制等の名称/略称	該当する活動	評価
環境基本法	自然環境の保全措置	○
グリーン購入法	環境物品購入	○
地球温暖化対策推進に関する法律	温室効果ガス排出の抑制	○
環境配慮事業促進法	事業活動に係る環境情報の提供	○
廃棄物処理法	廃棄物処理委託契約、許可証の確認、マニフェストの保存義務	○
リサイクル法	建設副産物の再利用、再資源化促進	○
建設リサイクル法	分別解体、再資源化促進	○
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処分	○
オフロード法	基準適合機械の利用	○
消防法(危政令)	第2石油類軽油等: 2000L タンクローリーの保管	△
富山県景観条例	事業活動を通じて地域の景観づくりに寄与	○
南砺市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例	廃棄物の適正処理	○
特記仕様書	特記仕様書に準ずる	○

弊社は建設業にかかわる環境関連法規（富山県や南砺市の条例も含む）について全ての適用法令を遵守しており訴訟もありません。

消防職員からタンクローリーの保管場所について指摘があり、修正いたしました。

代表者による全体の評価と見直し

	報告 (環境管理責任者)	コメント・提案 (環境管理責任者)	評価・指示事項・変更の 必要性 (代表者)
取り組み状況の 評価結果	①環境法規等の遵守状況 ・ 遵守されている	①環境法規等の遵守状況 ・ このまま継続する	指示事項 ①継続する ②継続する 変更の必要性なし
	②是正及び予防措置の状況 ・ ローリー設置個所について 指摘を受け修正した	②是正及び予防措置の状況 ・ このまま継続する	
環境 方針	・ 社内掲示により社員に周知 し、方針に従って行動してい る	・ このまま継続する	指示事項 継続する 変更の必要性なし
目標・環境 活動計画	・ 近年の状況の平均から低排 出レベルを維持していくため の活動目標を設定していく。	・ 目標が達成できなかった項目については目 標達成のために行えることを呼び掛けてエコ 意識を維持・向上させていく	指示事項 提案通り努めてください 変更の必要性なし
その他の環境経 営システムの各 要素	3ヵ月ごとの環境会議や毎月 の車両経費掲示などで、社員 一人ひとりのエコへのモチ ベーションを高めた	・ 定期報告に合わせ、環境教育なども積極的 に行っていきたい	指示事項 提案通り努めてください 変更の必要性なし
周囲の変化状況	①外部からの苦情等 ・ 中村災害工事全体への陳情	①外部からの苦情等 ・ このまま継続	指示事項 ①苦情は速やかに報告すること ②提案通り努めてください 変更の必要性なし
	②環境関連法規制・協会等の 動向 ・ 無し	②環境関連法規制・協会等の動向 ・ 建設業協会などから情報を入手して、常に 最新版にしていきたい	